



自分たちの表現を工夫しよう

楽譜に書かれている音符や記号は、作曲者のメッセージであり、曲想を感じ取って表現するための手がかりの一つとなります。「夏の思い出」(p.18、20)の、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解して、表現を工夫しましょう。

- 1 言葉のまとまりや抑揚を意識しながら、歌詞(p.18)を音読しましょう。
また、楽譜(p.20)を見ながら音楽を聴いたり歌ったりして、曲想やその変化を感じ取りましょう。
- 2 各段を歌って、強弱の変化や言葉のまとまりなど、音楽や歌詞から気付いたことや感じ取ったことを下の表に書きましょう。
その際、下の「注目するポイント」や「調べ方の例」(p.22)を参考にしましょう。

注目する
ポイント

せんりつ
旋律

強弱

- 3 ①②で気付いたことや感じ取ったことを手がかりに歌い試し、どのように歌いたいかを話し合っ、下の表に書きましょう。

	音楽や歌詞から気付いたことや感じ取ったこと	⇄	どのように歌いたいか
1 段 目	例 ・なだらかな旋律。	⇄	例 ・穏やかに歌いたい。
2 段 目		⇄	
3 段 目		⇄	
4 段 目		⇄	

- 4 ③で話し合ったことをもとに、自分たちの表現を工夫して歌いましょう。

工夫したことや歌ってみた感想などを書きましょう。